

天主閣

だより



マキキ聖城キリスト教会

「教会の礼拝を刷新する年にしよう」

マキキ聖城キリスト教会牧師

具志堅 聖

新年二〇一二年が始まりました。いつも年頭にその年の目標 (New Year's Resolution) を立てます。昨年は『変化 (Change)』という言葉を鍵言葉にして、大きな変化に取り組みました。一番大きな変化は、住み慣れた日本を離れて、ここハワイに引越したことでした。職場・環境・生活パターンなど、多くの事が変わりました。変化というものは時にストレスとなりますが、それらは時間をかけて馴染んでくるものであり、私たちの日常となったかと思えます。

今年の私の目標は『刷新 (Renewal)』と致しました。教会の年間聖句ローマ二章一節が与えられましたが、それに続く二節にある「心の一新」という言葉から来ている。これまでの事柄を再吟味し、新しくする年としたい。取り替える (変える) べきものは取り替え (変え)、残すべきものも調整して残す (tune up 手を加えて再生させる) ことをしていこうと思っています。その一つが教会の礼拝の営みです。

礼拝は教会のすべての働きの中核にあります。この礼拝の営みを刷新させていくことです。具体的な目標は、第一に「礼拝を意義深く (福音にふさわしく)、生き生きと

した (聖霊の満たしを味わう)、豊かな (喜びと感謝を表す) ものとすることです。」天上での礼拝の前味を得るようなものになりたいと思えます。

第二は「子どもから大人まで、神さまを共に礼拝する民 (教会) となるようにすること」です。なぜ教会は二千年以上ものの歳月を経て残ることができたのでしょうか。それは常に神の民が礼拝に生きること、次の世代に継承し続けてきたからです。その身をもって受け継いできたからです。子どもは皆、大人が礼拝する姿を見て学び、自らも神に従うことを決めていくのです。頭だけで考えて生きるキリスト者の信仰は長続きしません。やはり信仰の世界も心・技・体が一体となるときこそ、本来の力が表されるのです。

第三は「礼拝における奉仕を更に良きものとし、奉仕者がその喜びを深め、そして新しい奉仕者を育てていくようにすること」です。プロの選手や職人はかならず道具を大事にします。そして、自らのパフォーマンスのチェックを怠りません。また、先達、コーチ、仲間のアドバイスに耳を傾け、調整を試みて向上していきます。それだけでなく、あるレベルに来ると、その技術を次の人に残していくのです。私も多くの素晴らしい先輩たちによつてここまで育てていただきました。これまでの経験にも磨きをかけながら、このハワイ・ホノルル市にある教会で、良きものを神さまにささげていきたいと思っています。

「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」(ローマ二章一節)



のぞみの会便り

のぞみの会は冬休みでしたので日本からのレポートをお送りします。

何年かぶりに冬休み日本に行きました。年末年始の日本独特の雰囲気に加え、去年三月の東北大震災の爪痕が深く残る、そして特に東北の人々にとってはつらい一年だったことを感じました。この厳寒の季節、被災地はまだまだ現状は厳しく寒い仮設住宅で過ごす人々ばかりです。本当に復興するには数年かかるかと宮城県知事が言っていました。それでも東北の人々はとても頑張っていました。テレビの特集で家族を失い、船を失った漁師さんが再び海に出る決断をして頑張る姿を見ました。それまでの心の葛藤はどんなものだったでしょう。誰もが希望をもってあきらめず頑張っている姿をみて涙が出ました。きつと神様を知っている人はごくわずかでしょう。祈る相手はイエス様ではないかもしれませぬ。それでも神様は一人ひとり愛し見守ってくださいることを信じます。教会からもたくさん

のボランティアが支援に行きましたね。彼らの一つ一つの光がきつと被災地にとどいてると信じます。今年一年、被災地が元氣を取り戻して行かれますように。(直)

のぞみの会 毎週水・金 朝九時〜十二時

マキキ川柳募集!

天主閣便りで新コーナーがはじまります『マキキ川柳』。日常の生活から楽しくてクスツと笑える川柳 (短歌もOK) を作ってみませんか? 作品は礼拝堂外の応募箱まで、ペンネームでご参加ください。例えば、

『「前向きで」駐車場にも励まされ』

今年こそ頑張るマンより (サラリーマン川柳より抜粋)

『教会に 行くのが好きな その訳に 若いと言われ 五十間近』

こんぶちゃんより (マキキ教会メンバーより投稿)

などなど、お待ちしております!

テリーさんの簡単クッキング

「茶碗蒸し」

日本食の定番「茶碗蒸し」。若い世代も意外と中年世代でも、上手に作るのは難しそうと敬遠されがちです。テリーさんがきれいに絶対固まる方法を教えてください。

<材料> 4人分: 卵3個、だし汁2カップ、鶏ムネ肉8g (小さいの半分)、エビ4尾、しいたけ小2枚、カマボコ4枚薄切り、三つ葉

調味料A: 塩小さじ1/2、薄口しょうゆ&みりん各小さじ1

B: しょうゆ小さじ1、塩&酒を各少々作り方

- ① 鶏肉をボールに入れ煮立った湯をかけふたをする。
- ② エビはは背ワタと尾を取り開くように切る。
- ③ 鶏肉を取り出し削ぎ切りにし、エビと一緒に調味料Bにつける。
- ④ しいたけを削ぎ切りにする。
- ⑤ 調味料Aに卵を溶きほぐし、だし汁を少しづつ加え混ぜ、混ぜた汁を布巾でこす。*卵汁は卵1カップに対して3カップと覚え、しいたけの戻し汁やチキンブロスを加えてもよい。
- ⑥ 器に火の通りにくい具から入れ、卵汁を8分目まで注ぐ。
- ⑦ 器にふたをしないで、沸騰した湯に入れる。
- ⑧ 「す」ができないように、さらし素材の布を被せてから鍋ふたをする。10分位経ったら火から外し余熱で5分程蒸す。

今月の証

ランディ・アルコーン著

『宝の法則』を読んで

メッツカー・知代

この本の序文に、人は皆一生涯、宝探しの旅をしている。完全なお方と完全な場所を求め続けているのだ。そのお方とはイエスであり、完全な場所とは天国である。だからあなたがクリスチャンなら、すでにその完全なお方と出会っており、すでにその完全な場所に向かって歩み始めていることになる。

ただ、ひとつ問題がある。あなたはまだイエスと一緒に住んでいる訳でも、天国で生活している訳でもないのだ。礼拝に通い、祈り、聖書を読んでいる。それでも人生は退屈な労働だ・・・そういう人もいるのではないか、いくら探しても楽しみはどこにも見つからず、宝物も手に入らない・・・それではその宝物とは何なのか、それはどうしたら手に入れることができるのか、もしあなたがそれをもとめているのならこの本はきつと役に立つと思う。

まず宝とはその人にとって最も大切なものである。

「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからである」(マタイ六章二十一節)

この地上で宝と言えば、お金や持ち物だと思ふ。子供や恋人等という人もいるかもしれないが、これらは全て地上を離れる時において行かなくてはならないものだ。知っているだろうか。いつかは一人で天に帰って行かなくてはならない(天に帰れる事がどんなに素晴らしい事か)その時に何を持っていくかを考えてあれこれ迷っている人がいるだろうか。

本書ではこの事に關して多くの例話を紹介している。たとえば大金持ちのロックフェラーの霊柩車の後ろに荷物をひく牽引車がっているだろうか、どんな物を持って旅立つのだろうか。

「おまえのたましいは今夜おまえから取り去られる。そうしたらお前が用意した物は、いったいだれのものになるのか。」

(ルカ十二章二十節)

イエス様はなんでもお金や持ち物を引き合に出して教えを説かれた。お金持ち物に関する話はイエス様の言葉の一五%をしめているそうだ。そしてそれは天国や地獄の教えを合わせた分量よりも多い。なぜイエス様はお金と持ち物に、それほど強調点を置かれたのか。それはお金についてどのように考えるか、お金をどのように用いるかということが霊的ないのちというものに根本的にかかわってくるから。と書いてある。

私達からするとお金と信仰の問題は切り離して考えたいところだが、神はこの二つを別々の事柄として考えてはおられないそう。神様以上のものが私達の心にある時それを『偶像』と呼ぶと聖書に書いてある。全てのすべてをご存知の神様の前に出て私達はどんな申し開きが出るのだろうか。あの取税人のザアカイがイエス様に

「主よ、ご覧下さい。私の財産の半分を貧しい人達に施します。又誰のでも私がだまし取ったものは、四倍にして返します。」

(ルカ十九章八節)

その時イエス様は

「救いがこの家に来ました。」(ルカ十九章九節)と言われた。つまりお金に対して以前と全く異なる態度を示したことによって、ザアカイの心が変わえられたことが証明されたということなのだ。

この本で宝の法則と言っているものの中には捧げることで神様から頂ける喜び、それも宝とんでいる。そしてその法則は神様のギヤンテーパー付きなのだ。お金と物があなたの神になつてはいないだろうか。十分の一は最低の出発点なのだ書いてある。

私も自分を振り返り、クリスチャンになつてからなかなか十分の一が出来なかった。そのころのいい訳は、お金がない、支払いにまわさなくてはいけない、神様は私の心を知っている。出来るようになればするなと・・・今思うとそのころは経済的にそんなに大変だった訳ではない。その後から来るめちやくちや大変な時期をおもえば・・・

色々あつてある日私の心を聖霊様が変わえられて突然十分の一が出来るようになり、その時からお金に關しての心配がなくなった。状況はたいしてかわっていない。ただ、お金に關して心の底より安心と平安が湧いてくる。湧いてくるとしか言いようがない、自分では決してできることではない。今は十分の一が出来ることが、している自分が嬉しい。全ては神様の物、そして神様の助けなくしてはゼロなのだから、作者も十分の一は始めの一步であると書いてある。これから益々捧げられるように、聖霊様たすけてください。

私は手に入った全てのものの中から最初の實を取り分ける。取り分ける割合は、最低限の10%から始める。それを、主のみ属する聖なるものとして扱う。私はこれを、神への従順を持って行ない、神の祝福を求めます。

『マラキ三章六節〜十二節』

私は信仰を持って、私を試してみよという神の招きに応じる。



編集後記

あけましておめでとうございます。久しぶりの冬の日本で着くなりいきなり風邪をひいてしまいました。暖かいハワイに早く戻りたいです。(この原稿は日本滞在中に書きました!)皆様よいお年をお迎えください!

大塩 直子

毎年「今年は良い年になるかなあ」と思います。少し半信半疑、それは自分の頭で考えるからです。神さまは、わたしのためにまた新しい年をくださいました。大変な年も不安な年も、神さまは私に良いものを与えてくださるから、何も心配しないで日々を生きていければと思います。

松浦 由紀子

皆さん、新年の目標たてましたか? 私は、毎年達成できない目標を懲りずにたてました。今年こそ聖書マラソンを完走したい!(何年がかりなのでしょか?) ホノルル・マラソンは一生参加しなくても悔いは残りませんが、毎年の聖書マラソン脱落には悲しくなります。皆で励まし合ってゴールしましょうね。

玉寄 朋子



責任者 マキキ聖城キリスト教会 宣教師
編集者 松浦 由紀子・大塩直子
玉寄 朋子